

職員による自己評価

A業務改善

保護者の意向は課内で共有し、改善可能なものは速やかに対応している。研修は、オンライン研修など新たな取り組みを実施した。

B適切な支援の提供

支援前後のミーティングで職員間の共有や支援の検証改善を実施。活動プログラムは固定化しないよう、新たなプログラムの立案が必要。

C関係機関との連携

移行支援は移行先のニーズに合わせて、書面や訪問での引継ぎを行っている。今年度は学校との交流を目的とした公開療育を実施した。

D保護者への説明責任等

クラスだよりに活動概要を記載、園長通信の配布を行っている。保護者の悩みには連絡帳だけではなく電話対応や臨時面談を実施。

E非常時等の対応

毎月の避難訓練や、バス避難訓練、広域避難場所への避難訓練などを実施しているが十分ではない。今後、引き取り訓練の実施など整備が必要。

保護者による評価

A適切な支援の提供

約9割の利用者の方に満足していただいているが、プログラムの固定化を感じるとのご意見があった。

B保護者への説明等

ほぼ満足していただいているが、コロナ渦のため保護者同士の交流の場が少なかったことに対する不安や不満の声が多かった。また、ビデオで日常の子どもたちの様子を見る機会があると良いというご意見をいただいた。

C非常時等の対応

緊急時の対応については、9割の方が周知されているとのことだった。

D満足度

約9割を超える方に満足していただいている。子どもへの直接支援だけではなく、保護者の不安や悩みに寄り添う支援についても評価をいただいている。プログラムや、保育室の設定、玩具などが固定化しないよう、支援の幅を広げていくことが求められている。

通園課内での分析

【共通点】

- ・子どもの直接支援だけではなく、保護者（家庭）への相談支援を意識的に行っている。
- ・非常時等の対応については、職員へのマニュアル周知だけではなく、保護者にわかりやすく伝えられるよう、また複数回の機会を設けるなどして周知の徹底が必要。

【相違点】

- ・コロナ渦で保護者プログラムが中止または変更になったことに伴い、保護者同士が繋がる場が少なくなったことへの不安は大きい。できる限り実施したつもりではあったが、十分とは言い切れなかった。
- ・プログラムの内容をクラスだよりに記載するなど、療育の様子を伝えるようにしたが、実際の療育を見る機会が減ったこともあり、新たな周知の方法を検討したい。

分析・検討してみて…

通園課の強み

- ・アンケートや日々の療育で耳にする保護者の意見に対し、速やかに対応及び改善している。
- ・子どもへの直接支援だけでなく、保護者に対しては電話相談や臨時面談の実施など、丁寧に対応している。

通園課の改善点

- ・日常の療育の様子を伝える手段の検討。
- ・保護者同士の交流の場の保障。コロナ渦など災害時でも対応できる方法の検討。
- ・緊急時の対応の周知徹底。

通園課の改善への取り組み

- ・多様化するニーズに応えるため、保護者プログラムや、療育の動画コンテンツの配信などに引き続き取り組んでいく。
- ・様々な保護者のニーズに応えられるよう、保護者プログラムを再考する。
- ・災害時など緊急時の対応について周知徹底を行う。

～自己評価を行っての通園課としての感想など～

南部センター通園課の運営について、利用者の皆様が関心を持ち、貴重なご意見をいただけて非常に感謝しております。今年度も感染症拡大防止対策を講じながらの運営となりましたが、利用者の皆様にご理解ご協力いただいたこと感謝申し上げます。今年度はできるだけ療育の質を下げないように検討いたしました。至らないことも多かったと思いますが、今後の運営に生かしていきたいと考えています。

アンケートのご協力、並びにたくさんのご意見ありがとうございました。